



阿弥陀如来名号徳、恩徳讃など、真宗には度々徳という字が用いられます。
徳とは「はたらき」です。今いただいている様々な徳にご一緒に感謝する一年
としたいものです。

しんらん同人

No.578

1・2
月号

浄土真宗本願寺派 誓願寺

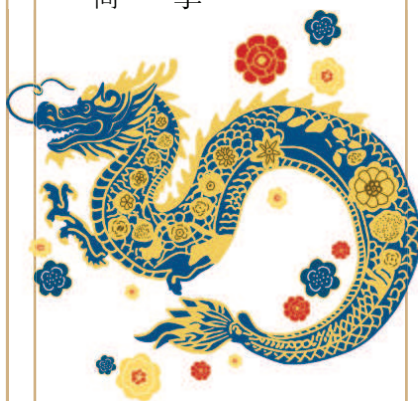
〒171-0052 東京都豊島区南長崎1-3-8

【電話】03-3950-7828 【ホームページ】<http://www.seiganji-tokyo.jp/>

あけましておめでとうございます

新しい年が 皆様にとりまして 豊かな人生を築く
おだやかな年でありますことを 念じております 合掌

誓願寺 関係者一同



われもひかりのうちにあり

誓願寺住職 古賀尚之

ほのぼのカレンダーの
一月の言葉は「生きる」と
いうことは、長さの問
題ではない」です。

一昨年に七十七歳の誕生
日を迎えました時から
私の心の内に、このカレ
ンダーの言葉に似た気持ちがあること、このほか湧い
てくる気がいたしております。



仏教では、私たちが生きている今の世界を
「思う通りにならない世界」「シャバー」と
現わしています。同じことを「四苦八苦の世

界」ともいいます。

生・老・病・死という基本の四苦に、愛別
離苦・怨憎会苦・求不得苦に、五蘊盛苦の四
つの苦（思う通りにならない苦しみ）を足し
たのが、四苦八苦の内容ですが、歳をとった
せいでしょうか、自分の体や心持が揺れ動く
五蘊盛苦な自分に改めて打ちのめされている
私です。

限界を知らされながらも、日々を過ごしな
がら皆様のお力になればと頑張る所存で
す。

本年もよろしく願ひいたします。

故 岡本泰雄
(誓願寺初代住職)

自由自在の 世界



親鸞聖人は教行信証の序文に「円融至徳の嘉号は、悪を転じて徳をなす正智」そして、円融の意味を、一念多念文意に「円融と申すは、よろづの功德善根みちみちてかくることなし、自在なるころなり」と述べておられます。

功德善根がいっぱいみちみちていて、欠くところがないのを円というのであります。全てのものが融け合い、融通しあつて、障りとなるものが、一つもないのを融というのであります。

至徳とは、至極の功德、つまりこのうえもない功德ということでもあります。

嘉号は、善美をつくした名ということですから。そこで円融至徳の嘉号とは、南無阿弥陀仏の名号を讃えたものです。

南無阿弥陀仏の名号は、ただの名ではありません。あらゆる功德を蓄え、あらゆる

ものを融かして自在ならしめる力であります。

それは静かな力としてあるのではなく、常に活動しているのです。躍動している力です。

名号のいわれを聞信して、み名を称える者は、南無阿弥陀仏に成るのです。

才市同行はこう歌っています。

「わしがなむなら あなたはあみだわしとあなたで なむあみだぶつ」

南無阿弥陀仏が、「信ずる」一つで、わが心・わが身の中に融けこむのであります。身も心も南無阿弥陀仏に成るのです。

煩惱も罪業も、南無阿弥陀仏が融化してしまうのです。

名号の徳が満入したもうたからには、転悪成徳とならざるを得ないのであります。

南無阿弥陀仏が悪を悪として知らしめて、その悪をすべて、南無阿弥陀仏に転じてしまふのです。

人生は苦の世界です。煩惱罪障の渦が巻いています。

次から次へと問題が起こり、苦しみ悲しまずには過ごせない人生であります。

されど、南無阿弥陀仏のいわれを聞信する者は、転悪成徳の活動があります。苦しみも悲しみも転回して「よろこばしき哉」といわずにはおれない境地が展開してくるのです。

障害があつても、それは障害とはならない。罪悪も障碍もすべて功德の体と成るのであります。

「罪障功德の体となる、氷と水のごとなり、氷多きに水多し、さわり多きに徳多し」であります。

煩惱と障害をすべてなくしてしまうことではありません。障害の多い人生であります。その障害がそのまま、精神的飛躍がされるところに、人生での真の自由があるのではないでしょう。

南無阿弥陀仏を聞信する者には必ずこの飛躍があります。

「南無阿弥陀仏をとなふれば、この世の利益きわもなし」であり念仏者は無碍の一道なりといわれるのも、円融至徳の嘉号のはたらきなのであります。

このみ名をとなえる身となれる幸せ、これ以上の幸せがどこにありますでしょうか。

副住職
法話

古賀明徳

「明けて下さりありがとう」と思う心

皆様、昨年は大変お世話になりました。皆様にとって昨年はどのような一年だったでしょうか？

最近、本で読んだのですが、人間とは良い記憶はすぐに忘れてしまつて、悪い記憶はなかなか忘れることができないそうです。なぜなら、その苦しみや悲しみを繰り返すことが無いように脳や心がしっかりと覚えていくからです。確かになと思いましたが。しかも、そんな苦しみや悲しみは次から次へと波のように押し寄せます。でも、そんな私たちであるから阿弥陀様は寄り添い続けてくださっているのです。あなたが苦しみや悲しみに壊れない様に私がいるんだよとはたらき続けてくださっているのです。

新年明けましておめでとうという挨拶があります。実はこの挨拶、仏教がもたになつてできた言葉です。苦しみや悲しみを抱える私たち（闇）から離れ、悟りを得る・仏と成る（明）を目指しましょうとするところから生まれました。阿



〔副住職 古賀 明徳〕

弥陀様を大切に生きる私たちの道は、阿弥陀様ご自身が開いてくださっています。そう考えると、真宗門徒においては「明けておめでとう」という言葉より、明ける道を開いてくださってありがとう、「明けて下さりありがとう」と、時折、こうしてお正月などの機会をご縁として、考えていくのが大切なのかもしれません。

今年もきっと私たちにとって、様々な事が押し寄せるでしょう。でも、それは間違いなく阿弥陀様がお示しくくださった明ける道と受け取り、しっかりと日々を大切にしながら歩ませていただきたいものです。

ご法座等 のご案内

どなたでもご自由に
ご参加いただけます。
参加費は無料です。

1月

1・1
(月)午後一時～
元旦会1・14
(日)午前十時～
定例法座【上野隆平師（京都）】
正午～
医療相談【佐藤公彦医師】1・21
(日)午前十時～
なかよしクラブ
（乳幼児から小学生までとその保護者）1・28
(日)午後一時～
定例法座・祥月命日合同法要
【服部法紹師（広島）】

2月

2・11
(日)午前十時～
定例法座【横内教順師（東京）】
正午～
医療相談

【佐藤公彦医師】

2・18
(日)午前十時～
なかよしクラブ
（乳幼児から小学生までとその保護者）2・25
(日)午後一時～
定例法座・祥月命日合同法要
【八幡舞衣師（石川）】

編集後記



一冊あたり、五十四回×三百部。合計一万六千二百回。皆様にお届けする令和六年カレンダーへの、法座日程等の押印がやっと完了しました。ご講師は京都・大阪・関東から日程調整をいただきました。有難い限りです。浄土真宗では「ご聴聞することが一番です。」是非お参りにおいで下さい。

今年の記念品が出来ました。九州・長崎県の波佐見焼のお皿二枚です。例年のように「われも ひかりの うちにあり」の文字を入れています。



〔↑ 令和6年の
ほのぼのカレンダー〕



〔↑ 法座日程等はすべて
手作業で押印しております〕



〔令和6年の来寺記念品（写真右）。9歳と5歳が持つと
このくらいの大きさです（写真左）〕

